白山麓阿手集落におけるムツシの分布

小　川　弘　司　石川県白山自然保護センター
佐　川　貴　久　石川県白山自然保護センター

DISTRIBUTION OF MUTSUSHI AT ATE , HAKUSAN MOUNTAIN AREA

Hiroshi OGAWA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Takahisa SAGAWA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

ムツシは，「焼畑適地または焼畑用地」のことで，「焼畑のために利用したあと休閑し，植生・地力が回復の途上にある，または回復の終了した樹林地・草地に加えて，現に耕作している焼畑の畑地」を指す（橘，1995）。

山間地にあって耕地の乏しい白山麓では，この斜面を利用した焼畑が盛んであり，多くのムツシが山間地に散在し利用されていた。しかし，これらムツシの分布・広がりを示した地図は，尾口村役場（1978）が一部集落で示した以外，ほとんど残されていない。休閑地を含めると広大な面積が必要な焼畑農耕は，多くの場合山間地に出作り住居を構えていたので，出作り分布図が（例えば田中・幸田，1927；幸田，1956；石川県白山自然保護センター，1988；Park et al.，1999；小川，2002），それに代わるものであった。

白山麓旧鳥越村（現白山市）の阿手集落には，明治31年（1897）に作成された『焼畑台帳』及び『山林帳境』（写真１）が残されている。そこには集落の入会林野をムツシとヤマ（別名アラヤマ）とにわけ，『焼畑台帳』には地割したムツシの位置と使用者が，『山林帳境』にはヤマのそれが記されていた。また，阿手住民の松本恵次氏，森範高氏（現在神奈川県在住）は，これらをもとに5,000分の１概略図上に地割した入会林野の使用者の屋号を記載した『阿手山林全図』を昭和35年（1960）に作成していた。

本報では，『焼畑台帳』及び『阿手山林全図』をもとに，阿手集落におけるムツシの分布図を作成したので報告する。

写真１　焼畑台帳（右）と山林帳境（左）

焼畑台帳と阿手山林全図

阿手集落は，石川県白山麓山間地旧鳥越村（現白山市）の最奥部に位置する（図１）。中心部標高は280mで，大日川沿いの谷底平野上に集落が立地し，周囲は山地に囲まれている。

ムツシに対するヤマとは，「中腹より上の部分で，比較的地味が悪く，雑木や薪炭木が植生している土地（鳥越村役場，1972）」を指し，焼畑耕作が行えるほど肥えた土地ではなかったが炭焼きなどに利用されていた場所である。

松本恵次氏（1924年生まれ）によれば，ムツシ・ヤマは「くじ（鬮）」と呼ばれる地割制度によって分散使用されていた。「くじ」は親くじ（原則１人）と子くじ（複数）で一つのグループを作り，おおき

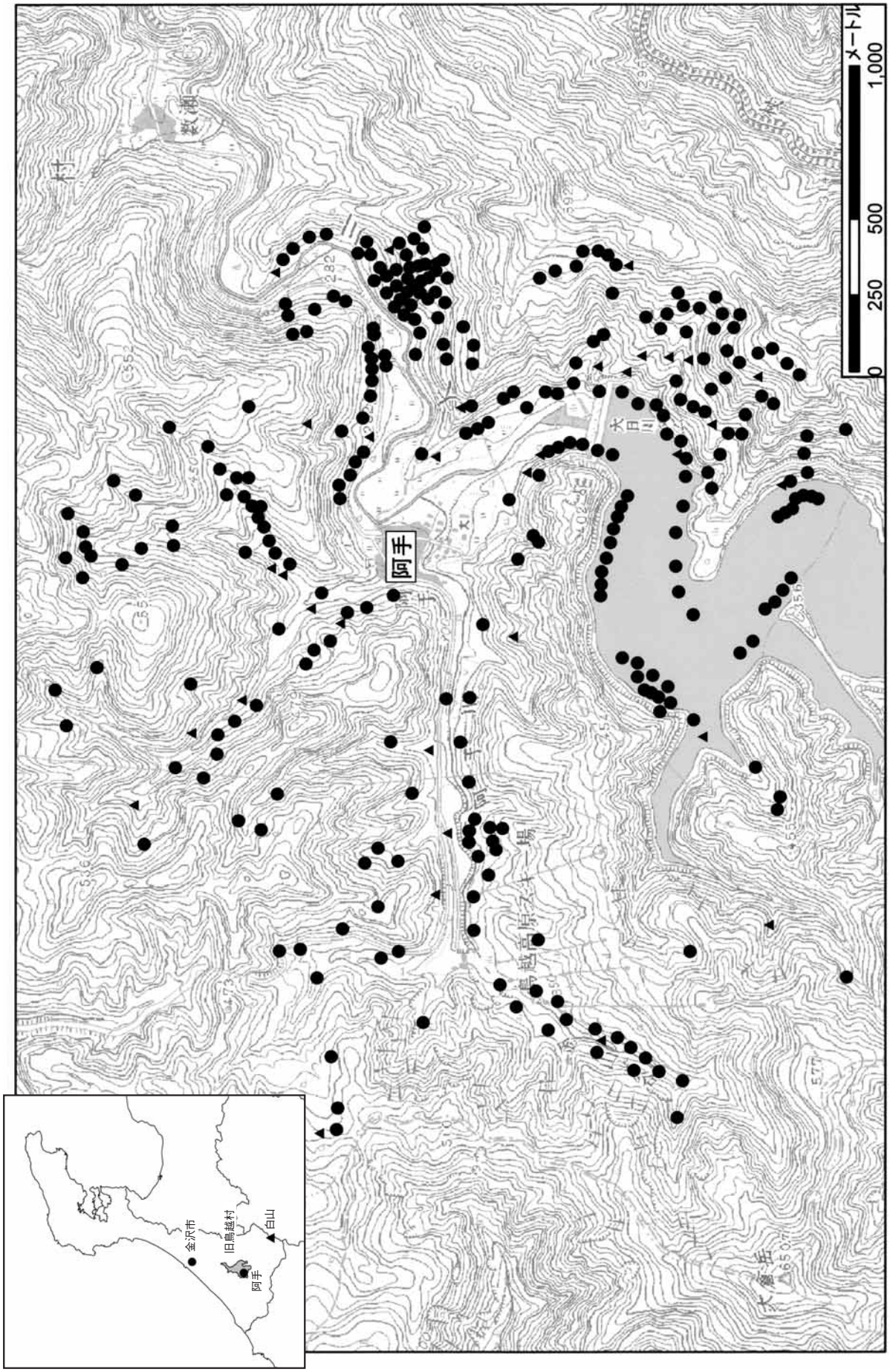

図１　阿手におけるムツシの分布

●はムツシの位置，▲は「付」と記された飛地。数値地図２万５千分の１「尾小屋」を使用。

く21くじに分かれていた。各くじは阿手のムツシ・ヤマをそれぞれ20数か所・10数か所に分散使用していた。そして各「くじ」間の地割の不平等を無くすために，20年に一度見直しがされることになっていた。

『焼畑台帳』に記されているムツシの地割の例を，次に記す。

うすのめ割

一　うすのめ久平作り次郎左エ門作り清兵衛取川下は山切川上はすか境

一　同所新右エ門作り作兵衛取北はすか境南は下にすか見通境

（略）

まとは割

一　まとは源右エ門作り次平取口は山切奥は山切下は土居境

一　同所藤兵衛作り太郎右エ門取西も東も山切下土居境

一　同所半四郎作り次左エ門取西は尾界東はすか境同所ひなた又三郎作り付く

（略）

※変体仮名は平仮名に，旧字体は新字体に改めてある。

「うすのめ割」，「まとは割」といった大きな地割の中に細かく分かれた個々の地割が記されている。個々の地割は，ほぼ次のような形態で記載されている。

地名　旧親くじの屋号　作（り）
新親くじの屋号　取　区画の境

例えばうすのめ割の冒頭の地割は，「うすのめ（地名）の，久平・次郎左エ門が使用していた所は清兵衛が使用することとする。川下は山，川上はすか（「ズカ」と発音し，岩や石がごろごろするなど草も木も生えにくい所）が境である。」といったような意味になる。また，まとは割の最後の地割に「ひなた又三郎作り付く」とあるが，これは一つの地割の面積が狭いことなどによる他の地割との不公平をなくすためにその地割と別な飛地をここに付け加えるといった意味である。「日当たりの良い場所（あるいは「ひなた」と言う地名の場所）で又三郎が作っていたところを付け加える。」と言う意味になる。この「付（く）」が加わる場合が何か所かにある。

しかし，この地割も植林が進んだことや明治年間の阿手銅山の本格操業などにより配分換えが不可能となり，明治31年を最後に行われなくなってしまった（それ以前は『焼畑台帳』によると明治８年と記されている）。

そこで，松本恵次氏は台帳でしか残っていなかった地割を地図に残そうと思い，森範高氏と共同で『阿手山林全図』を作成した。地図には主な河川と道路そして細かく尾根線が書かれ，それを基にしながら『焼畑台帳』及び『山林帳境』に記載された個々のムツシ・ヤマの地割の範囲を示し，使用者の屋号を記すとともに，台帳及び地図上に地番をつけてわかりやすく示してある。台帳だけでは現地を知るものでない限りその位置を正確に知ることはできない。地元住民でも山に人が入らなくなった今日，この地図がムツシ分布を知る大切な手がかりとなっている。

本報ではこの地図及び『焼畑台帳』から，阿手のムツシの分布図を作成した。作成に当たっては，『焼畑台帳』を基本として『阿手山林全図』を参考にしながら個々の地割地点の位置を記した。なお台帳には杖川流域（図１の南東部）のムツシの地割が記載されているが，『阿手山林全図』には記載されていなかったため，杖川流域のムツシ分布の地図化はできなかった。

ムツシの分布

図１にムツシの分布を示した。阿手集落を中心に周囲の大日川流域やその支流の谷沿いにかけて，多くのムツシが存在していたことがわかる。一部大日川ダム湖の中に位置するものもあるが，その完成は昭和42年（1967）であり，また集落西側の鳥越高原スキー場がオープンしたのも昭和45年であり，いずれも当時はまだなかった。『焼畑台帳』のくじによる地割の総数は杖川流域の103か所をも含め，423か所であった。このうち今回地図上に記したのは290か所である。

先述のごとく，ムツシは焼畑耕作地とその休閑地とからなり，その利用は一般的に焼畑を４－５年続けた後15－20年は休閑地としていた。よって，ムツシの中で実際に焼畑が行われていた範囲は限られた場所でしかないと考えられるが，それでも山間地の中に焼畑耕作地が広がっていた様子を知ることができる。明治政府の官撰地誌である『皇国地誌』によれば，当時の阿手の人口数・戸数は323人・65戸で

あり，全戸農業を生業としていた。この当時は阿手住民の多くが焼畑耕作に従事していたと推察される。また，阿手集落域からかけ離れた場所に位置するものはなく，出作りによる焼畑耕作が行われていたわけではない。ただし，杖川流域（図１の南東部）のムツシについては白峰からの出作り民が当地に居住しており（鳥越村役場，1972），この出作り民による焼畑耕作が杖川流域では行われていた。

ムツシの地形的な位置は，山地斜面下部にある。先述のヤマに対するムツシは「中腹より下の比較的肥沃な土地（鳥越村役場，1972）」に位置しており，阿手山林全図のヤマに対するムツシの位置はそれを示している。白山麓のムツシが斜面下部に位置していることは，山口（1994），橘（1995）によって既に指摘されており，当地阿手でもそれを裏付ける形となった。

おわりに

焼畑耕作が阿手で行われていたのは昭和30年代までのことで，以後焼畑は行われていない（小川，2006）。かつてのムツシは，現在，スギの植林地や雑木林へと様変わりしてしまった。阿手の人口も22人・11世帯（平成17年国勢調査による）と大幅に減少し，山仕事で山へ入る人も少なくなってしまった。過去から現在までの山村の変容過程を理解する上でもムツシの過去の分布記録は，重要であると考えられる。

謝　辞

本報には『阿手山林全図』を作成された松本恵次氏から『阿手山林全図』をはじめとした資料の提供や聞き取りなどで大変お世話になった。また，阿手区長の阿垣和廣氏には阿手区有文書の『焼畑台帳』及び『山林帳境』の提供に便宜を図っていただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

文　献

石川県白山自然保護センター（1988）白山麓自然環境活用調査報告書．石川県白山自然保護センター，65pp.

小川弘司（2002）吉野谷村中宮における出作りの分布．石川県白山自然保護センター研究報告，**29**，77－81.

小川弘司（2006）土地利用の変遷状況調査．生物多様性調査種の多様性調査（石川県－白山麓地域）報告書，5－30.

尾口村役場（1978）石川県尾口村史第１巻・資料編１．947pp.

幸田清喜（1956）白峰出作り．現代地理学講座第２巻，河出書房，270－286.

田中啓爾・幸田清喜（1927）白山山麓に於ける出作り地帯（一）．地理学評論，3－4，p19－36.

橘礼吉（1995）白山麓の焼畑農耕－その民俗学的な生態誌．白水社，666pp.

山口隆治（1994）白山麓・出作りの研究－牛首村民の行方．桂書房，250pp.

鳥越村役場（1972）石川県鳥越村史．1406pp.

Park, S., Iwata, S. and Aniya, M. (1999) Analyses of the natural and preferred sites of the Dezukuri and Their abandoning process in Shiramine,Japan,by geographic information systems and remote sensing. Science Report of the Institute Geoscience, University of Tsukuba Section A, vol20, 19－32.